上野村第6次総合計画

2021-2031 Comprehensive Plan of Ueno Village

概要版

上野村

上野村第6次総合計画とは？

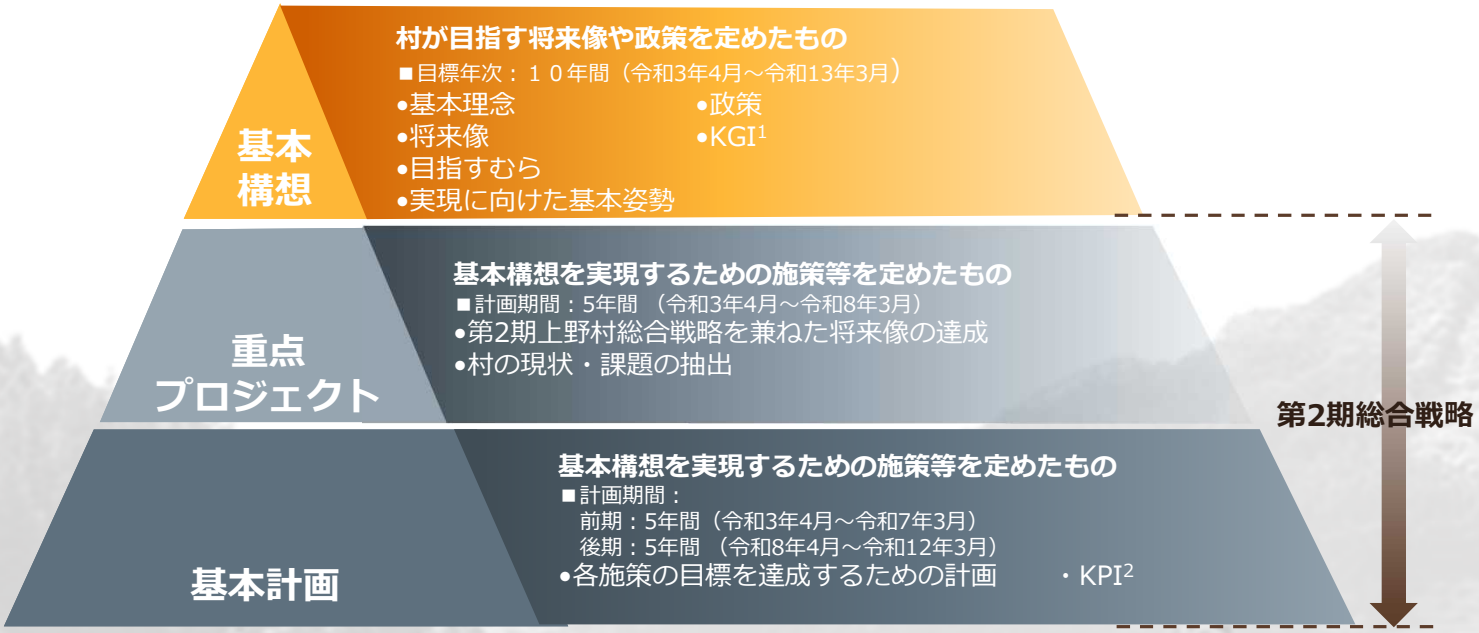
計画の概要

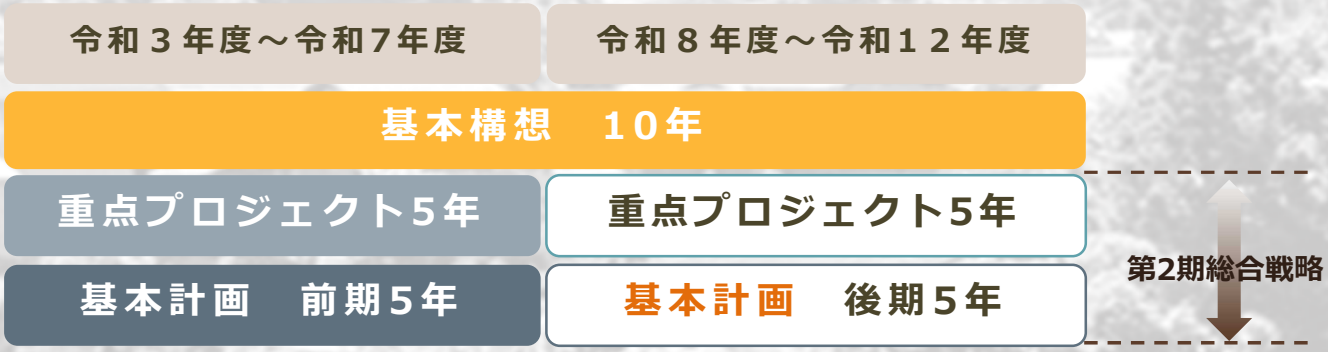
5年、10年先を見据え、持続可能かつ村民が幸せに暮らせる村の実現を目指します

総合計画はむらづくりの基本理念や将来像に基づき施策全体を網羅的に取り上げ、施策全体像を明らかにすることにより、行政の役割の範囲を明確に示したものでなければなりません。

一方で、「村の将来像」を実現し、持続可能なむらづくりを推進するためには、重点的に取り組むプロジェクトを定めることも重要となります。

この考えから、「第6次総合計画」は、**「基本構想」「重点プロジェクト」「基本計画」**により構成することとします。さらに、本計画における「重点プロジェクト」及び「基本計画」は「まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号）」を踏まえ、「第2期総合戦略」として位置づけ、将来像及びまち・ひと・しごと創生の実現に向けて効果的な施策に取り組みます。





※1:Key Goal Indicator（重要目標達成指標）将来目標人口を示すとともに、基本目標の達成を定量的にはかる指標のこと。
※2:2Key Performance Indicators（重要業績評価指標）各施策の目標を達成するための計画及びその達成状況を測る指標のこと。

上野村第6次総合計画とは？

策定方法

住民と協働したむらづくり

協働のむらづくりを基本として、上野村に愛着と誇りを持ち、本計画を「村民による村民のための計画」とするために、検討にあたっては村民の皆様一人ひとりの主体的な参画をお願いいたしました。

本村としては村民の皆様との情報共有のために積極的な行政情報の公開を行うとともに、意見や評価等を幅広く聞き取り、課題を整理することで、村の将来像や取組の改善方針、新たな施策展開を様々な角度で検討しました。

村職員

村民

上野村第6次総合計画

01 現行計画の進捗状況整理

現行計画（及び総合戦略）での施策の実施状況、実施できない場合の課題を整理しました

01 村民アンケート

現況把握するために村民アンケート調査を実施しました

02 各課ヒアリング

現行計画の実施状況を確認、現状の課題、これからの新たな動きなどについて職員全員参加のもと意見交換を実施しました

02 ワークショップ（４回）

村民とともにむらづくりについて考えるためのワークショップを全４回行いました

03 庁内ワーキング

各課の若手職員を中心に、課の代表が集まり、将来の上野村に必要な施策について検討を実施しました

03 オープンハウス型説明会

総合計画の素案を説明するため、パネル等の展示により意見をうかがう説明会を実施しました

むらづくりにおける主要課題

現在の上野村は、転入者数よりも転出者数が多く、人口減少が進み、就業人口も減少傾向にあります。

また観光事業に関しても観光客の増加に対して観光消費額が減少傾向にあるなど課題が山積しています。

そこでアンケート調査、ワークショップを開催し、むらづくりについて村民の意見を参考に、上野村のむらづくりにおける主要課題を７つにとりまとめました。

上野村の地域資源を活かした村外への情報発信

首都圏から2時間圏内にも関わらず本村の知名度は高くありません。上野村の豊かな地域資源を活かして**村外への情報発信**、**村外イベントへの積極的な参加**に取り組む必要があります。

村の魅力を伝えるアンテナショップ

地域住民を巻き込んだイベント

移住へつなげる体験・交流プログラムの充実

村への移住を検討してもらうためには、村の暮らしを知ってもらうことが必要です。そのため、移住や定住へのきっかけとしての**村の生活体験や交流プログラム**を充実させることが重要となります。

ヘルスツーリズムの推進

森林資源の活用による持続可能なむらづくり

地球温暖化や環境問題の深刻化が進むなか、本村の特色である豊かな森林資源を活かして持続可能な資源・エネルギーの循環を確立するため、村と事業者、村民が一体となり**自然エネルギー**※1の**地産地消**※2を図り、**森林保全・林業の一層の振興**を図る必要があります。

ペレット工場

上野村森林組合

※1:太陽光や熱、風力、潮力、地熱など自然現象から得られるエネルギー。 石油や石炭などのいわゆる化石燃料が枯渇性の不安を抱えるのに対して、主に太陽が照りつづける限り枯渇の心配がないことから、「再生可能エネルギー」ともいわれる。
※2:地元で生産されたものを地元で消費すること。
※3:「狩猟社会」「農耕時代」「工業社会」「情報社会」に続く、人類史上5番目の新しい社会のことです。IT、ロボット、人工知能（AI）、ビッグデータといった先端技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ、経済発展と社会的課題の解決を両立していく人間中心の豊かな社会（Society）を実現するために既に様々な分野で技術革新や環境整備が進められており、私たちの生活や仕事にも今度大きな変化が起こることが予想されている。
※4:国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」において記載された平成28（2016）年から令和12（2030）年までの国際目標。持続可能で多様性と包摂性のある社会を実現するための17のゴールから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）こと。

安全・安心に暮らせる防災対策と基盤整備

近年の災害の激甚化に対応するため、自然エネルギーを利用した**災害時のエネルギー対策**に努めるとともに、**防災拠点の整備、避難場所の確保**が必要となります。また、暮らしの質の向上のために**交通インフラ等の基盤整備**に取り組む必要があります。

地域資源を再生可能エネルギーに

担い手の確保と定住に向けた生活の支援

活気にあふれ、自立したむらづくりを推進するため、地域を支える**担い手の確保**は喫緊の課題です。

担い手を含めたすべての村民が**安心して暮らせるためのフォロー体制**を充実させ、**離村者の減少**に取り組む必要があります。

担い手育成

就職案内・サポート

幅広い世代に選ばれる教育環境・住環境の整備

村の活力を向上していく上で、過疎化・少子高齢化による生産年齢人口の減少を抑制し、適性な人口規模と人口構造を維持することが重要です。**Uターン者を含めた幅広い世代に移住、定住先として選ばれる**ため、**教育環境や住環境の整備**に取り組む必要があります。

上野村移住案内

新たな需要の創出と社会変化への対応

新型コロナウイルスの感染拡大を機に都市での生活のあり方や、**地方への移住**を考える等**新たな需要の創出**が見込まれます。また、Society5.0※3やSDGs※4 等社会やニーズの変化に対応した機動力のある取り組みが必要となります。

SDGs 令和12年までに達成すべき17の目標

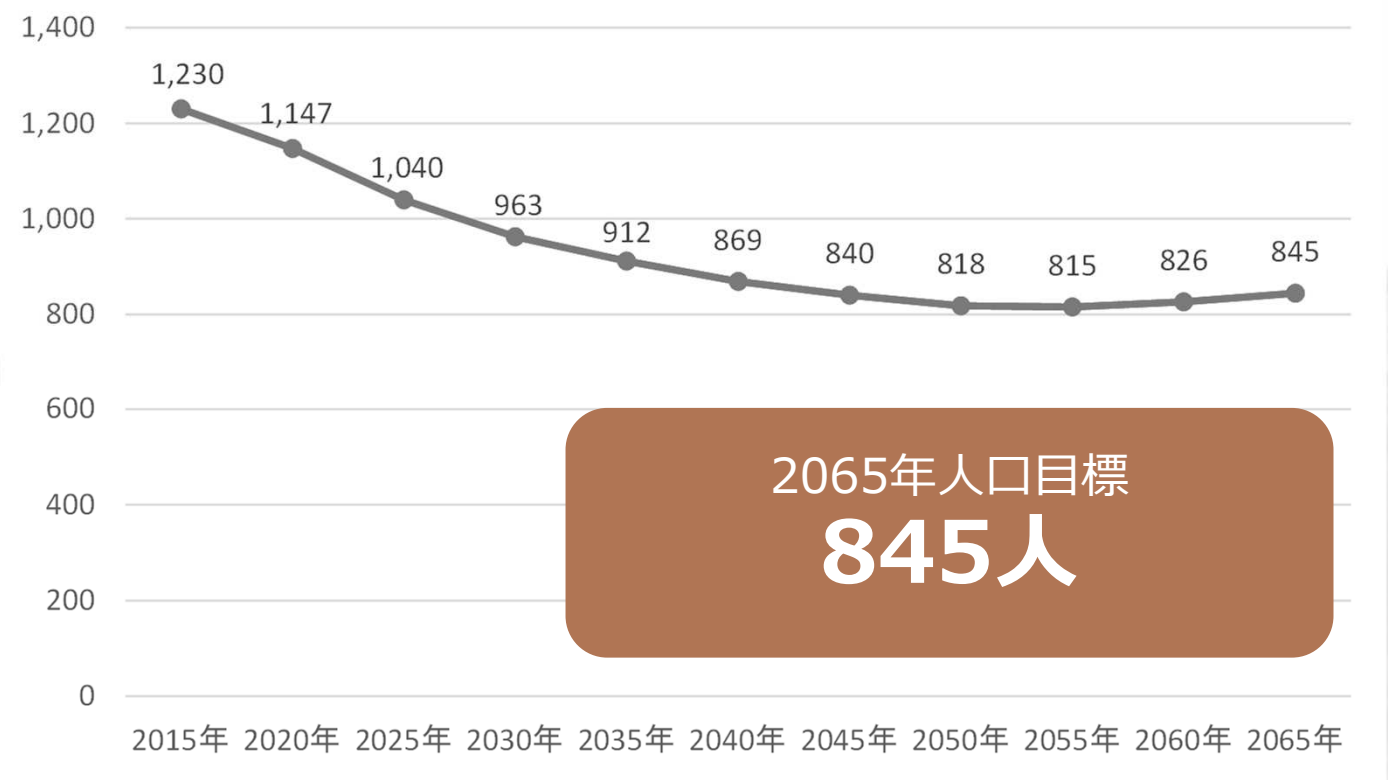
2030年、上野村の目指す姿

将来の目標人口

人口ビジョンでは、持続可能な社会・経済の維持・活性化を図るため、2065年の人口の目標値を全世代でバランスの取れた**845人**と設定します。
この人口目標を達成するため、目指す将来像を定め基本目標を策定します。

また、少子高齢の人口形態ではなく、全年代がほぼ同じ人数で安定して推移することを目指し、全世代の希望に寄り添った施策を検討、実行します。

上野村第6次総合計画においても、人口が減少しても持続可能で豊かに暮らせる社会・経済を実現するため、定住対策や結婚から出産・子育て支援策、UIターン施策、関係人口増加策等を総合的に展開します。



世代のバランスがとれた
持続可能で豊かな暮らしの実現

将来像

人・地域がつながり、輝ける未来へつなぐ

人と人とが助け合い、つながりあい、だれもが主役となって幸せに暮らせる持続可能な村、**「上野村版地域循環共生圏」**の構築を目指します。

そして、豊かな自然を資源として村内に好循環を巡らせ、多様性※1と包摂性※2のある地域社会のなかで人々が活力を持っていきいきと暮らし、交流することで、村の輝ける未来へとつなげます。

上野村版地域循環共生圏

※1:人間には個性や特性があって、その違い（性別や人種、宗教、思想、学歴）をお互いに認め合い、それを活かすことで、世の中が元気になり、社会が発展していくという考え方のこと。
※2:社会的に弱い立場にある人々をも含め市民ひとりひとり、排除や摩擦、孤独や孤立から援護し、社会（地域社会）の一員として取り込み、支え合う考え方のこと。

6つの基本目標

上野村のむらづくりは、ストーリーをもって取り組みます。
まずは最も重要なテーマに「循環・共生」「地域」「活力」「人」「福祉・健康」「生活基盤」の6つを掲げ、これらをつなぐことによって輝ける未来へとつなげます。

基本目標1：循環・共生
豊かな資源と暮らす村

基本目標2：地域
魅力を伸ばし愛着を持って暮らす村

基本目標3：活力
人が輝く元気な村

基本目標4：人
温かく交流し学びあう村

基本目標5：健康・福祉
健康で安心な暮らしの土壌

基本目標6：生活基盤
快適で安全な暮らしの土壌

3つの重点プロジェクト

重点プロジェクトは、「人・地域がつながり、輝ける未来へつなぐ」村の実現に向けて、6つの基本目標に基づき推進する事業のうち、次に示す観点により特に重点的な取組を抽出し、６つの基本目標ごとに位置付けます。

魅力あふれるむらづくりプロジェクト

自立した循環型むらづくりプロジェクト

住み続けたいむらづくりプロジェクト

上野村のむらづくりの基本目標

基本目標１：循環・共生　豊かな資源と暮らす村

村の魅力を未来へ継承するため、人々が主体となって上野村の自然や文化、歴史を学ぶことのできる仕組みづくりを行います。

また、村民の日々の営みを知り、体感することができる体験型、滞在型プログラムの充実を図り、上野村の価値を高め、村民が活躍できる地域づくりにつなげます。

1 豊かな資源の活用・継承

村内資源の循環利用の推進

- 上野村版地域循環共生圏の形成
- 林業のコスト縮減と高度化
- エネルギーや資源の地産地消の推進
- 神流川の水質保全の促進

2 資源を活かした村の魅力向上

森林資源を活かした環境観光展開、雇用創出

- キャンプ事業と連携した山地整備事業
- 環境保全に向けた取組と環境観光の推進
- 村外への積極的な情報発信の推進

自然体験やアウトドアスポーツの推進

- 自然を活かした健康増進活動、スポーツ活動の推進

主な取組

■ **林業コストの縮減と高度化**

森林施業の集約化や災害による被害の抑制に配慮した安全な路網整備を推進するとともに、施業の低コスト化、効率的な森林整備を進めます。また林業の高度化と伝統技法を継承し、林業の担い手確保・育成にも取り組みます。

■ **エネルギーや資源の地産地消の推進**

公共施設への太陽光発電の設置を引き続き推進するとともに、再生可能エネルギーやエコへの取組から環境教育にも取り組みます。

■ **神流川の水質保全促進**

神流川の維持保全、景観整備により水質保全を図ります。

■ **新たな観光資源の掘り起こしと整備活用**

キャンプなどの観光事業と山地事業の連携により、豊かな自然を活かしたビジネス機会の創出に取り組みます。

■ **環境保全に向けた取組と環境観光の推進**

ごみ減量化とリサイクルの推進をするとともに、地域資源を活かした環境観光施策を推進していきます。

■ **村外への積極的な情報発信の推進**

SNSや産業情報センター・総合案内所のインフォメーション機能、交流シンポジウム等を使った村内外への情報発信を強化します。

■ **自然を活かした健康増進活動、スポーツ活動の推進**

観光スポットの再整備やアウトドア需要に対応できるような施設整備や取組の推進を行います。

コテージ「まほーばの森」

基本目標２：地域　魅力を伸ばし愛着をもって暮らす村

観光・交流を通じて、その魅力を伝えるとともに、都市と地方の共存を目指し、新たな需要を創出します。

1 交流促進、人材育成による村の魅力向上

交流サービス事業と関連産業の活性化

- 新たな上野村のツーリズムの創出
- 定住に繋げるツーリズムの創出
- 集客に資する旅行商品の開発
- 村内消費活動の促進

交流機会の拡充と感染症対策の両立

- 地域内交流の充実
- 大学との連携事業
- 広域連携の強化
- 住環境PRイベントの実施
- 感染症対策及び関連する情報管理・提供の充実

人材育成

- 交流事業からの魅力向上・雇用創出・移住定住への展開の促進
- 地域を担う人材育成支援

2 快適な暮らしの環境整備

交通利便性の向上、交通ネットワークの拡充

- 交流促進、暮らしの利便性を高める交通環境の整備

住環境整備

- 後継者定住促進事業の拡充
- 自然エネルギーを活用した環境にやさしい住環境整備　事業の実施
- 都市交流型の空き家対策事業の推進

主な取組

■ **新たな上野村のツーリズムの創出**

上野村の豊かな自然資源を活用し、新たな上野村のツーリズムの創出を図ります。

■ **定住に繋げるツーリズムの創出**

空き家を活用した村での暮らしを体験できる取組を充実し、より一層の移住・定住者の増加につなげます。

■ **集客に資する旅行商品の開発**

産業情報センターにおいて地域限定旅行業を取得しました。
引き続き、旅行業の取得を推進し、旅行商品の開発に取り組みます。

■ **村内消費活動の活性化促進**

村内の消費活動の動向・意向調査を実施し、必要な施設等の整備を推進することで、村外への人口流出抑制、村内経済循環の促進を進めます。

■ **村産材利用の促進**

村内の木材を、村内における各種産業で有効活用し、地場産業の振興と経済循環を促進します。

■ **交流事業からの魅力向上、雇用創出、移住定住への展開の促進**

次世代を担う人材を確保するため、UIターン政策を促進し、生産年齢人口の増加を図ることで人材を確保し、産業や地域の振興につなげます。

■ **自然エネルギーを活用した環境にやさしい住環境整備事業の実施**

各集落の活性化と限界集落化の解消を目的として、引き続き村営住宅の建設・改修を推進します。また、宅地造成及び分譲を引き続き進めます。

■ **都市交流型の空き家対策事業の推進**

空き家の有効活用のため、空き家バンクを設立、空き家所有者と空き家を探している方のマッチング支援やテレワーク※1、ワーケーション※2の場としての整備を進めていきます。

well-beingツーリズム

※1：「Tele ＝ 離れた」と「Work ＝ 働く」を合わせた造語で、時間や場所にとらわれない柔軟な働き方のこと。
※2:ワークとバケーションを組み合わせた造語で、休暇中に観光地やリゾート地で働くという過ごし方のこと。

基本目標３：活力　人が輝く元気な村

活力あるむらづくりを推進するうえで、人がいきいきと働くことができる雇用の場を創出し、林業、農業等の従来からある村の産業と、バイオマス※1発電事業等の新たな産業の両輪で、本村の産業全体の振興に取り組みます。

1 村内雇用環境の整備・活発化

雇用創出・多様な働き方の実践

- 起業支援、雇用創出、働く環境の整備

人材確保・拠点整備

- 木工従事者の技術向上と育成体制の構築
- 既存施設の情報発信や運営体制の強化
- 農業の担い手育成と耕作放棄地対策
- 村内既存施設の機能強化・拡充、利用の促進

2 産業の創出・活性化

交流産業の創出

- 地域資源を活かした営業活動展開と都市交流の実現
- 来訪者に最高のおもてなしができる看板メニューの創出
- 製品製造から販売までのサポート体制構築
- 新しい産業拠点での安定的経営

主な取組

■ **村内起業支援、雇用創出、働く環境の整備**

起業希望者や後継者などに対し支援制度や、求人情報が収集しやすい環境づくりに取り組みます。また、多様な働き方を実践できる環境整備や、地域産業の担い手を確保するための取組の支援も行います。

■ **木工従事者の技術向上と育成体制の構築**

木工業における後継者育成を図るとともに、木工業の底上げにつながる施策を展開します。

■ **農業の担い手育成と耕作放棄地対策**

後継者育成・交流人口増加につながる農業のあり方を検討するとともに、ICT※2を積極的に導入した農業を推進し、農業従事者を確保します。

天然素材を活かした上野村の特産品

■ **村内既存施設の機能強化・拡充、利用の促進**

直売所の販売促進や、既存施設の機能強化・整備等を推進していきます。

■ **地域資源を活かした営業活動展開と都市交流の実現**

村内周遊イベント等多様なイベントを開催し、交流人口の拡大に取り組みます。

■ **来訪者に最高のおもてなしができる看板メニューの創出**

新たな加工品開発による看板メニューづくりに取り組み、観光客の消費を活発化させます。

■ **地域の特産品を活かした消費の場の拡大**

イノブタ事業やきのこ事業の拡大を図るとともに、低コスト化と安定的な生産体制の整備に取り組みます。また、新たな特産品の開発のために必要な整備を行い、消費の場の拡大を図ります。

※1：動植物から生まれた、再利用可能な有機性の資源（石油などの化石燃料を除く）」のこと。主に木材、海草、生ゴミ、紙、動物の死骸・ふん尿、プランクトンなどを指す。化石燃料と違い、バイオマスは太陽エネルギーを使って水と二酸化炭素から生物が生成するもので、持続的に再生可能な資源であることが大きな特徴。 バイオマスの種類は主に「廃棄物や未利用のもの」、「資源作物」に大別される。
※2:「Information and Communication Technology」（インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー）の略で、意味は「情報通信技術」のこと。

基本目標４：人　温かく交流し学びあう村

村内人口が減少していく中で、村外からの移住者を受け入れる体制の充実・強化は急務です。温かく移住者を受け入れる充実したサポート体制の構築や交流機会の整備を推進し、移住を希望する人々にとって暮らしやすく、「住みたい」と思ってもらえるような地域づくりを進めます。

1 移住者支援による移住・定住促進

移住者向け支援体制の構築

- 移住者向け支援体制・制度の整備

2 学びの環境整備

教育地域連携、参加型学習環境の支援体制の充実

- 教育現場人的体制強化・教育プログラム充実
- ライフステージに応じた食育推進
- 豊かな教育環境・オンライン教育環境整備

歴史文化の担い手確保・育成、継承

- 地域文化の継承
- 旧黒澤家住宅等の文化財の保存・活用

生涯学習環境の整備

- 生涯学習機会の拡充
- 生涯スポーツ参加機会の拡充

主な取組

■ **移住者向け支援体制・制度の充実**

移住者が地域で暮らし、定住できる環境を整えるため、各種支援制度の充実を図ります。

■ **豊かな教育環境の整備**

都市部の子どもに対し、豊かな自然環境の中での体験学習の実施や、短期での「かじかの里学園」への入園（山村留学）、親子留学の受入れ体制の充実等を推進します。また大学や専門学校との連携授業の実施や、サテライト校※1の誘致など、多種多様な整備を図ります。

かじかの里学園

■ **生涯学習機会の拡充**

生涯学習プログラムの充実及び生涯学習自主活動（サークル活動）の促進により、生涯学習機会の拡充を目指します。

※1：学校の本校舎から地理的に遠く離れた場所に設置され、授業を行う校舎のこと。

基本目標５：健康・福祉　健康で安心な暮らしの土壌

子育て世代に、移住・定住先として選ばれ、また、上野村で育った子どもたちが、やがて村に戻ってくるように、出産、子育て、介護、福祉等、幅広い世代のあらゆるニーズに合わせたきめ細かいサポート体制を充実させ、より良い暮らしの環境の実現を目指します。

1 全世代が健康に暮らせる環境の整備

全村民が健康で安心安全に暮らせる環境の整備

- 全ての村民が暮らしやすいむらづくりの推進
- 全村民の健康管理体制の充実強化
- 新たな感染症に対する備えの強化
- 結婚・妊娠・出産・育児の切れ目ない支援

2 安全・安心な環境の整備

防災・防犯対策

- 防災・防犯対策と体制の充実

主な取組

■ 医療・生活支援などの行政の充実

子育て、介護、障がい者福祉等、生活の中のあらゆる側面においてきめ細かく、かつ充実したサポートを行うための体制整備を実施するとともに、経済的支援も推進します。

また、健康管理体制を充実させ、心身ともに健康でいきいきとした生活を支えるために、既存の医療・福祉体制のさらなる充実・強化及び村外医療施設との連携を進めます。

■ 結婚・妊娠・出産・育児の切れ目ない支援

行政と民間が連携・協働し、村全体で妊娠時から子育て時までサポートする体制を構築し、安心して子どもを生み育てられることのできるよう、医療費無料化の実施や、育児相談体制の充実を図ります。

育児サークル

■ 防災・防犯対策と体制の充実

災害時に際し、通信の確保に取り組むとともに、公共施設の耐震化や河川の整備、防災中枢拠点としての機能を強化し、迅速に避難ができるよう各地区における避難導線を確保します。

防犯対策に対しては、防犯カメラの設置、街路灯（防犯灯）の設置、各種詐欺による被害を防止するため、身を守るための積極的な情報発信等対策を講じます。

■ 災害時にも自立運用が可能な地域マイクログリッドの構築

温室効果ガス排出量実質「ゼロ」、災害時の停電「ゼロ」を実現するため地域マイクログリッド※1の構築に取り組むとともに、バイオマス発電施設により生まれた電力を活用する組織づくりを進めます。

※1：地域の再生可能エネルギーを活用し、災害等による大規模停電時には周辺電力系統から独立したグリッド（電力供給網）により電力供給が可能な自立分散型の電力システムのこと。

基本目標6：生活基盤　快適で安全な暮らしの土壌

小さな村の連帯感を大切に、自立する村の環境づくりに取り組みます。

1 インフラの更新・強化や活用

ソフト・ハード両面からの快適な暮らしの環境整備

- 交通ネットワークなどのインフラ基盤整備
- 利便性と環境に配慮した基盤・体制の強化
- 情報基盤を活用した暮らしの利便性の向上

情報公開の推進

- インターネット、SNSを活用した情報開示の促進

2 行政の機能強化・協働の仕組み整備

行政体制の強化・効率化

- 情報のデータ化による効率化・情報資産管理の徹底
- 行政運営体制の効率化・拡充

住民との協働による行政運営

- 住民の行政参画機会の拡充
- 協働の仕組み整備

主な取組

■ **交通ネットワークなどのインフラ基盤整備**

村民の交通利便性を図るため、乗合タクシーの利便性の向上に取り組み、車輌更新には、EV車（電気自動車）など環境への負荷の少ない車種の導入を進めます。また経済活性化に向け、交通環境の改善について国・県に対する要望活動を継続します。

■ **情報基盤を活用した暮らしの利便性の向上**

村内全域でインターネットの通信環境の改善を図り、情報環境整備を推進します。また村独自のローカル5G ※1※2のシステム構築を推進します。

携帯電話等エリア整備

※1 ローカル5G
通信事業者以外の様々な主体（地域の企業や自治体等）が、自ら5Gシステムを構築可能となるもののこと。

※2 5G（第5世代移動通信システム）
5Gを導入することで、高画質な動画のライブ配信やオンライン診療が可能となるほか、農機の自動運転やロボットの遠隔操作など、ほぼリアルタイムでの通信が必要とされる場面での活用が期待される。大容量のデータを高速に送受信できるネットワークのこと。

上野村の重点プロジェクト

①魅力あふれるむらづくりプロジェクト

美しい自然や豊かな資源など上野村の魅力を最大限に引き出し、観光振興へ活かすことにより、にぎわいを創出し、交流人口の拡大を目指します。

上野村の豊かな森林資源による観光客の誘致促進

- 自然を活かした健康増進活動、スポーツ活動の推進
- 新たな上野村のツーリズムの創出
- 定住に繋げるツーリズム※1の創出
- 地域資源を活かした営業活動展開と都市交流の実現
- 環境への取組と環境観光の推進

シティプロモーションの強化

- 村外への積極的な情報発信の推進
- 村内既存施設の機能強化・拡充、利用の促進

資源の新たな掘り起しとブランディング

- 新たな観光資源の掘り起こしと整備活用
- 集客に資する旅行商品の開発
- 来訪者に最高のおもてなしができる看板メニューの創出

②自立した循環型むらづくりプロジェクト

村内資源を活用して消費活動の場の創出・拡大を行うことで、村内における経済循環をより活発化させます。また、資源を有効活用してエネルギーを生み出すことで、エネルギー循環を生み出し、持続可能なむらづくりを推進します。

村内における経済循環の創出

- 村内消費活動の活性化促進
- 村産材利用の促進
- 村営事業における村内企業の積極的活用
- 地域の特産品を活かした消費の場の拡大

村内資源を有効活用した地域循環の促進

- エネルギーや資源の推進
- 林業コストの縮減と高度化
- 神流川の水質保全の推進

③住み続けたいむらづくりプロジェクト

暮らしの環境の整備、子育て世代や移住者への支援及び働く場の充実などにより、人口の流出抑制やUIターン※2移住者の定着促進を目指します。村の未来を担う人材の育成に力を入れ、だれもが主役となって輝くことができるむらづくりを推進します。

定住・移住を促す取組

- 自然エネルギーを活用した環境にやさしい住環境整備事業の実施
- 結婚・妊娠・出産・育児の切れ目ない支援
- 医療・生活支援などの行政の充実
- 移住者向け支援体制・制度の充実
- 生活相談窓口の創設
- 都市交流型の空き家対策　事業の推進

雇用創出・担い手育成

- 村内起業支援、雇用創出・働く環境の整備
- 交流事業からの魅力向上、雇用創出、定住移住への展開
- 生涯学習機会の拡充
- 木工従事者の技術向上と育成体制の構築
- 農業の担い手育成と耕作放棄地対策
- 豊かな教育環境の整備

安全・安心に暮らせる防災対策と基盤づくり

- 交通ネットワークなどのインフラ基盤整備
- 災害時にも自立運用が可能な地域マイクログリッドの構築
- 防災・防犯対策と体制の充実
- 森林整備の拡大・効率化と防災対策の両立
- 情報基盤を活用した暮らしの利便性の向上

※1:従来型の観光旅行ではなく、テーマ性の強い体験型の新しいタイプの旅行とその旅行システム全般を指す。
テーマとしては産業観光、エコツーリズム、グリーンツーリズム、ヘルスツーリズムなど主題をもった観光や旅行などがある。
※2:「Uターン」は、一度生まれ育った場所以外で勤務したのちに、再び出身地に戻って働くことを指す。「Ｉターン」は、生まれ育った場所で勤務したあと、出身地以外の場所に移住して働くこと。

2021-2031 Comprehensive Plan of Ueno Village

人・地域がつながり、輝ける未来へつなぐ

上野村第6次総合計画

発行　令和3年3月　　編集・企画　群馬県上野村役場振興課

〒370-1614 群馬県多野郡上野村川和11番地　TEL.0274-59-2111　FAX.0274-59-2470
http://www.uenomura.jp/